

様式 2

八百津町告示第 79 号の 2

パブリックコメントの回答について

住民の方から寄せられた意見の概要とそれに対する町の考え方及び最終案は下記のとおりです。

平成 31 年 3 月 28 日

八百津町長 金子 政則

- (1) 募集案件 「第 4 期八百津町地域福祉（活動）計画」にかかる意見の募集について
- (2) 募集期間 平成 31 年 1 月 7 日～平成 31 年 2 月 5 日
- (3) 意見提出数 1 件

意見の概要	意見に対する考え方
<p>本書内 P 47②大人対象の福祉教育の推進内にあります担当教育課欄の「中央公民館」は解体中です。「ファミリーセンター」の誤りではないか？</p>	<p>ご指摘の解体中の建物は、「八百津公民館」です。昭和 59 年に現在のファミリーセンターができるまでは「中央公民館」でしたが、できてからはファミリーセンターを「中央公民館」とし、旧館は「八百津公民館」としました。本書にあります「生涯学習」を推進する拠点は、現在の「中央公民館」（ファミリーセンター）にあたります。</p>
<p>本書ではボランティア、住民参加がキーワードであり、一方で社会福祉協議会のリーダーシップのあり方に言及されております。主体に対してその気にさせる方法までは言及されておられません。主体である住民をその気にさせる方法はどのようにすべきか実行には健康福祉課は研究してください。</p>	<p>ボランティア、住民参加を推進するためには、住民自身が気づき、考えること、そしてその考えが行動につながる必要があります。</p> <p>そのきっかけの一つとして、地域振興課が取り組んでいる「公共交通網計画」や、介護保険の「介護予防・日常生活支援総合事業」の実施に向けての住民・各種地域団体・社協・行政等の協働が、あらゆる地域福祉の課題解決に向けての動きへとつながっていくことをねらいとしています。</p> <p>行政としては、健康福祉課のみならず、すべての課が地域の課題を共有し、同じ方向性を持って業務に取り組むことが重要と考えます。行政の実践を地域に発信し、そして地域の声に耳を傾け、その実践の評価・見直しを丁寧に行っていくことが必要と考えます。ご意見のとおり、今後こうした考えを踏まえながら、継続的に協働していくための研究・グループワークなど、実践の積み重ねが必要であると考えています。</p>
<p>懇談会は、時間制約のためグループワークの最終盤でやっと活性化した意見が一部で見受けられました。ポストイット記入には住民が主体となる可能性があったと思います。本書を本当に実現し、住民満足を達成するためには住民を巻き込み主体であることを理解してもらうために社協、役場、住民の継続的なグループワークの積み重ねが必要であると考えます。</p>	<p>懇談会は、時間制約のためグループワークの最終盤でやっと活性化した意見が一部で見受けられました。ポストイット記入には住民が主体となる可能性があったと思います。本書を本当に実現し、住民満足を達成するためには住民を巻き込み主体であることを理解してもらうために社協、役場、住民の継続的なグループワークの積み重ねが必要であると考えます。</p>

- (4) 最終案 別添